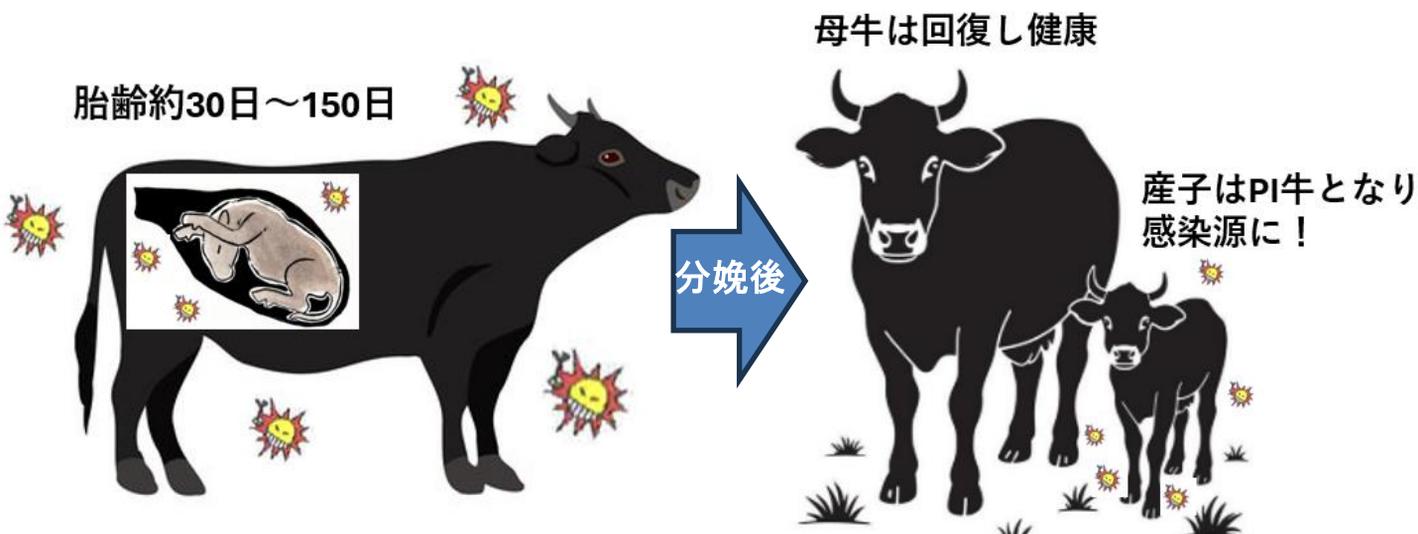


牛ウイルス性下痢について

県北家畜保健衛生所

● 「牛ウイルス性下痢(BVD)」とは

- ・ 育成牛には呼吸器病や下痢等を、**妊娠牛には異常産(流産や胎子奇形)や繁殖障害等**を起こす疾病
- ・ **妊娠牛(胎齢約30～150日)**が感染すると、生涯に渡って病原体を排出し続けて、他の牛に感染を広げる牛(**PI牛**)が産まれる場合がある。



● 予防と対策

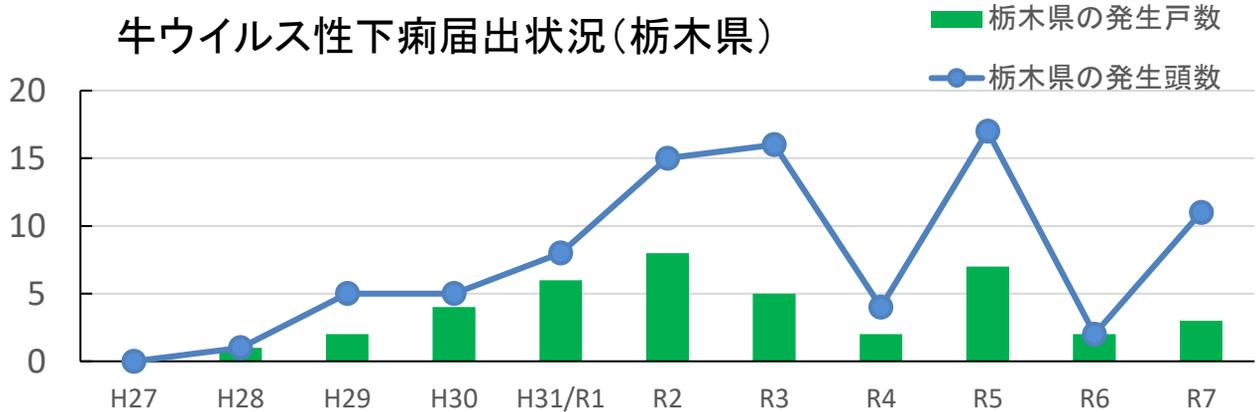
- ・ ワクチン接種による感染予防
- ・ 農場内に病気を入れない衛生対策
→ 専用衣服・長靴の着用、消毒 等
- ・ PI牛の摘発とう汰
* PI牛の治療方法なし

検査体制及びPI牛摘発時の対応については、裏面を御覧ください。

検査体制について

本県では、5年に1回のヨーネ病定期検査時の血清を用いた検査、放牧予定牛検査及び病性鑑定等で検査を実施し、PI牛の摘発とう汰を実施しています。

栃木県での発生状況 R7.12月現在



PI牛を摘発したら

① PI牛の自主とう汰

補助が受けられますので、家畜保健衛生所に御相談ください。

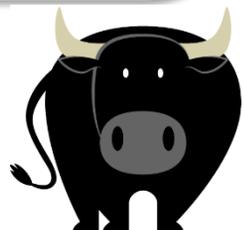
② 新生子牛の検査

新生子牛がPI牛ではないかの確認検査を10か月間実施します。

③ 侵入防止

ワクチン接種や導入牛等の検査をお勧めします。

本病対策には、生産者の皆様の協力が不可欠です。
御理解及び御協力をよろしくお願いいたします。



県央家畜保健衛生所 TEL:028(689)1200 FAX:028(689)1279

県南家畜保健衛生所 TEL:0282(27)3611 FAX:0282(27)4144

県北家畜保健衛生所 TEL:0287(36)0314 FAX:0287(37)4825